

平戸市議会議長 辻 賢治

Kenji Tsuji

「市民に寄り添う議会を目指すとともに、ずっと住みたいまちづくりの実現に向けて努めてまいります」



明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、心新たに希望に満ちた輝かしい新年をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

さて、市民待望の西九州自動車道建設についてありますが、昨年末に松浦・佐々間の着工式が執り行われました。議会としても、市民の皆さまとともに長年にわたり積極的な要望活動を通じ、その成果が現れてきたところであります。この間、ご協力をいただきました皆さま方に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも早期完成に向け積極的に活動してまいります。

また、昨年は人口減少に歯止めをかけ、本市の活性化に向けた施策を戦略的に実施していくための指針として「平戸市総合戦略」を策定し、4つの基本目標である「雇用の促進」「産業の振興」「子育て支援」「定住・移住の促進」を掲げ、地方創生に向けた取り組みを始めたところであり、こうして、以前から取り組んでいるブランド化や6次産業化による平戸市物産の知名度は、ふるさと納税の取り組みと相まって全国に広がっています。

一方、いったんは取り下げとなった「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録は「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」として仕切り直し、平成30年度の登

録を目指すこととなりました。平戸市は構成資産から外れることとなりましたが、今なお多くの観光客が訪れるなど本市の貴重な資産であることには変わりなく、世界遺産としてしっかりと発信していかねばならないと考えております。こうした着実な取り組みや、好機を生かしながら、総合戦略で掲げる各種施策が着実に実を結び「ずっと住みたいまちづくり」につながるよう、私たち議会といたしましても、積極的な議員活動を展開し、議会機能の充実強化を図りながら、議会の活性化に努めてまいります。

今年、市議会議員の選挙の年となります。議会改革を進める中で現在20人の定数を今年の選挙から18人に削減しました。また、選挙権が18歳以上となり若者にも議会の活動を伝えていきたいと考えております。今後とも市民に寄り添う議会を目指すとともに、議会の果たすべき役割を議員一人一人が重く認識し、自己研鑽に努めながら、平戸市発展に寄与してまいり所存でありますので、市民の皆さまの変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、この一年が皆さまにとりまして幸多からんことを祈念いたしまして、新年のごあいさついたします。

平戸市長 黒田成彦

Naruhiko Kuroda

「若い世代が、平戸に生まれ生活することで自信と誇りにつながるようなまちづくりを目指して」



明けましておめでとうございます。皆さま方におかれましてはご家族おそろいで希望に満ちた輝かしい新年をお迎えになられましたことを心からお喜び申し上げます。

さて昨年は、平戸市にとりまして幾つかの試練を乗り越える局面がありました。年明けでまもなく記録的な寒波に見舞われ水道管が破裂し5日間前後の断水により市民の皆さまに大変なご不便をおかけしたこと、また世界遺産登録に向けたイコモスの事前審査により登録の名称変更を余儀なくされ、構成資産のうち田平天主堂が除外されました。さらに、レストハウスの改修事業がテレビ番組の終了により見直さざるを得なくなることなど、不測の事態に対応するため多くの時間と労力を費やすこととなりましたが、市議会をはじめ多くの皆さまによるご指導とご激励をいただきながら、市職員一丸となつて解決の糸口を見出すべく粘り強く取り組んでまいりました。この間、市民の皆さまの深いご理解とご協力に深く感謝申し上げます。

その一方で、本市の農林水産分野においては、大島生まれの県産雄牛「勝乃幸号」が日本一の栄冠に輝き、また特産品のアゴが全国的ブランド商品となり高騰するなど活況を呈し、PR効果も相まって平戸物産の底力を発揮することとなりました。

さらに「ねりんピック2016」におけるゲートボール交流大会の開催や日本最大で九州初となる「第33回センサ・マイクロナンシ」と応用システム「シンポジウム」の開催、また鄭成功山門完成によるアジアをはじめとする外国人観光客の飛躍的な伸びなど、交流人口拡大戦略の効果が見えつつあります。

しかしながら、国勢調査による本市の人口は3万1,920人となり減少傾向が続いています。これを食い止めるための平戸市総合戦略も2年目を迎え、さらに平成30年度から次の10年に向けた総合計画を策定していくこととしています。市民の皆さまにおかれましては、各地でまちづくり運営協議会を設立していただき、今後とも皆さまの英知と不断の努力によって自立した持続可能なふるさと創生にお力添えとご協力をお願いいたします。そして平戸の魅力と可能性を皆さまとともに共有し、積極的に発信し続けながら多くの平戸ファンを惹きつけ交流の機会を増やすことにより、若い世代が平戸に生まれ生活することで自信と誇りにつながるよう希望あふれるまちづくりに精進してまいります。

結びに、この一年が皆さまにとりまして、お幸せで明るく飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます。年頭のごあいさついたします。



長崎県議会議員
西川克己
Katsumi Nishikawa

明けましておめでとうございます。輝かしい平成29年の新春を健やかに迎えにられましたこととお喜び申し上げます。
さて、長崎県は人口減少や少子・高齢化の急速な進行、グローバル化の進展や地球規模での環境問題の発生など、本県を取り巻く社会経済情勢は大きく変化しており、平成28年度は新たな総合計画の初年度として「長崎県総合計画チャレンジ2020」が取りまとめられました。平成29年度はその2年目として着実に県勢の発展につながるよう全力を

注いで活動したいと思えます。市民の皆さまのご要望につきましては、新規事業は県の実施計画に取り上げてもらうように、またすでに取りかかっている事業は、早く完了するように県当局と意思疎通を図り、取り組んでまいります。11月議会におきましても、郷土平戸市、長崎県の発展を願う「安心安全に住める郷土づくり」について、玄海原発避難路の計画、医療体制の充実、高齢者の特殊詐欺防止対策、高齢者の運転問題および高齢者福祉行政「農業振興」について、全国和牛能力共進会に向けた取り組み、畜産クラスター事業を活用した肉用牛振興、施設園芸収量向上対策「道路行政」について、松浦市を中心とした県北の原子力災害避難道路の整備、維持工事における発注時期、規模、精霊流しにおける清掃費のあり方などについて質問しました。今後は、平戸市の懸案事項であります「西九州自動車道の早期完成」「農林水産業および観光の振興」などで連携を図り、「平戸市」の声を県政に届け、平戸市振興のため頑張つてまいります。
結びに、平戸市のさらなるご繁栄と市民の皆さまにとりまして今年がまた良い年でありませう心より祈念申し上げます



平戸市教育長
小川茂敏
Shigenori Ogawa

明けましておめでとうございます。皆さまには健やかに新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。
昨年は年頭から寒波による断水を経験し、4月には九州では想像すらできなかった熊本地震、夏場の長期干ばつなど、さまざまな天変地異を経験し、安全安心のまちづくりの大切さを改めて思い知った一年でした。
さて本年平戸市は、平成19年の「生涯学習都市宣言」から10年の節目の年を迎えることになりました。宣言では「市民一人一人が、郷土に誇りを持ち、学び、実践することに

よって、温かみあるまちづくりを目指す」という、共助と協働の心をうたっています。このような時代であればこそ学校教育も含め生涯学習がいよいよ重要な時代を迎えたと思えます。
今、学校では情報化の時代を反映して、学力の向上を目指しICT教育の推進が急速に図られています。また一方では、今日の予測不可能な社会を生き抜く子どもを育てるため、伝統や文化に立脚した広い視野を持ち、志高く未来を創り出す子供の育成が求められているところです。
少子高齢化が一層進行する現在社会にあつては、自治会や社会教育団体など、さまざまな組織が連携し、分かち合い、助け合う、いわゆる共助の心が重要性を増してきます。市民の皆さまが、地域の子どもをしっかりと見守り育てることに積極的に関わっていただくと共に、自らの生きがい作りと、豊かな地域社会の形成のため、身近な社会教育機関の活用と活動団体へ積極的にご参加、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。
結びに、本年が皆さまにとりまして、明るく希望に満ちた実り多い年となりますよう心から祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成28年 県民表彰受賞者

11月23日、地方自治、産業、文化、教育などの振興に関して、顕著な功績を残した人を表彰する「平成28年県民表彰」の表彰式が県庁で行われました。

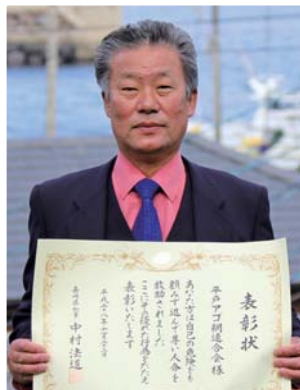
県内で21団体、110人が表彰され、本市からは、1団体、4人が表彰されました。



地方自治功労
福田 洋さん
（大島村）

「これまで応援していただいた人たちのおかげです」

昭和62年4月30日、旧大島村議会議員に初当選以来、多年にわたり大島村議会議員、議長、副議長および平戸市議会議員として、村勢および市勢の発展に尽力するとともに、地方自治の振興に貢献されました。



人命救助
平戸アゴ網連合会
(会長 吉田芳一さん)

「海に出る場合は必ず安全点検をしてほしい」

平成27年9月、プレジャーボートが大波を受け転覆し、乗船者5人が海中に投げ出され危険な状態にあった中、船団の連携による素早い対応により救助されました。

社会福祉功労

井上 恵さん
（岩の上町）

「これまで支えていただいた人たちのおかげです」



昭和47年4月、平戸市手をつなぐ親の会設立に関わり、その後多年にわたり、長崎県手をつなぐ育成会理事などとして、会の運営および育成などに尽力するとともに、社会福祉の増進に貢献されました。

消防・防災功労

丸屋 一彦さん
（大久保町）

「身の引き締まる思いです。これからも頑張ります」



昭和49年1月1日平戸市消防団に入団以来、多年にわたり平戸地区団長などとして、消防力の増強・近代化に努めるとともに、団員の技術向上、防火思想の普及に尽力するなど、消防防災体制の確立と民生安定に貢献されました。

特別賞

野口清之さん
（鏡川町）

「職場の皆さんや生徒たちの支えのおかげです」



「第47回全国選抜社会人相撲選手権大会」において優勝を勝ちとり、長崎県のスポーツ水準の向上に貢献しました。また、その他の各種大会でも上位入賞するなど、大きく活躍されました。